

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	コクリツダガクホウジン シガダガク 国立大学法人 滋賀大学									
フリガナ大学の名称	シガダガクダガクイン 滋賀大学大学院 (Graduate School of Shiga University)									
大学本部の位置	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号									
大学の目的	大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	情報通信技術の発展とともに、社会や自然に関する多様かつ多量のデータが得られるようになり、このようなデータを処理・分析し価値を引き出すことのできるデータサイエンティストの育成が喫緊の課題となっている。本研究科では、データサイエンスの最新の方法論の講義や、データを用いて社会的な課題を解く実践的な演習から成る体系的なカリキュラムを提供することにより、方法論とデータをつなぐことのできる価値創造人材を組織的に育成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	データサイエンス研究科 [Graduate School of Data Science]	年	人	年次人	人	博士（データサイエンス） 【Doctor of Philosophy in Data Science】	年月 第1年次 平成32年4月 第1年次	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号		
	データサイエンス専攻 [Department of Data Science]	3	3	—	9			【基礎となる研究科】 データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 (修士課程)  【基礎となる学部】 データサイエンス学部 データサイエンス学科  14条特例の実施		
計			3	—	9					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	大学院経済学研究科 博士後期課程 経済経営リスク専攻（△3）（平成32年4月）  大学院データサイエンス研究科 平成32年4月 博士後期課程の開設に合わせ、修士課程を博士前期課程に改める									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 (博士後期課程)	講義	演習	実験・実習	計	10単位				
		1科目	8科目	0科目	9科目					
教員組織の	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
				人	人	人	人	人	人	人
	新設分	データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 (博士後期課程)		9 (9)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
		計		9 (9)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	— (—)
	既設	教育学研究科 学校教育専攻 (修士課程)		43 (43)	27 (27)	4 (4)	0 (0)	74 (74)	0 (0)	14 (14)
		教育学研究科 高度教職実践専攻 (専門職学位課程)		10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)
		経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程)		19 (19)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	19 (19)
		経済学研究科 経営学専攻 (博士前期課程)		10 (10)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	
		経済学研究科 グローバル・ファイナンス専攻 (博士前期課程)		4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	
経済学研究科 経済経営リスク専攻 (博士後期課程)			32 (32)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	49 (49)	0 (0)		
								1 (1)		

概要	データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 (修士課程)	10 (10)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	
	計	128 (128)	86 (86)	6 (6)	0 (0)	220 (220)	0 (0)	— (—)	
	合計	137 (137)	94 (94)	6 (6)	0 (0)	237 (237)	0 (0)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種	専任		兼任		計			
	事務職員	95 (95)	人	78 (78)	人	173 (173) 人			
	技術職員	7 (7)		0 (0)		7 (7)			
	図書館専門職員	3 (3)		0 (0)		3 (3)			
	その他の職員	7 (7)		20 (20)		27 (27)			
	計	112 (112)		98 (98)		210 (210)			
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地	162,440 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		162,440 m <sup>2</sup>			
	運動場用地	76,930 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		76,930 m <sup>2</sup>			
	小計	239,370 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		239,370 m <sup>2</sup>			
	その他	109,382 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		109,382 m <sup>2</sup>			
	合計	348,752 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		348,752 m <sup>2</sup>			
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
	61,790 m <sup>2</sup> (61,790 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )		61,790 m <sup>2</sup> (61,790 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	43 室	42 室	76 室	15 室 (補助職員 2人)	4 室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数					
	データサイエンス研究科			23 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体	
	データサイエンス研究科	651,098 [138,486] (651,098 [138,486])	20,605 [7,180] (20,605 [7,180])	4,450 [4,376] (4,450 [4,376])	12,862 (12,862)	58 (58)	0 (0)		
	計	651,098 [138,486] (651,098 [138,486])	20,605 [7,180] (20,605 [7,180])	4,450 [4,376] (4,450 [4,376])	12,862 (12,862)	58 (58)	0 (0)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数					
	5,764 m <sup>2</sup>	510		759,900					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	5,437 m <sup>2</sup>	テニスコート、プール、弓道場							
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
	教員1人当り研究費等	—	—	—	—	—	—	—	
	共同研究費等	—	—	—	—	—	—	—	
	図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		—							
大学の名称	滋賀大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	※平成29年度入学定員減(10人)
教育学部 学校教育教員養成課程	4年	230人	—人	930人	学士(教育)	1.05倍	平成9年度	滋賀県大津市平津二丁目5番1号	

既設 大 学 等 の 状 況	経済学部					1.03		滋賀県彦根市馬場		
	経済学科				学士（経済学）		平成29年度	一丁目1番1号		
	昼間主コース	4	165	3年次 5	678	0.97			※平成29年度入学 定員減(10人)、編 入学定員増(2人)	
	夜間主コース	4	11	—	42	0.78			※平成29年度入学 定員増(2人)	
	ファイナンス学科				学士（経済学）		平成29年度			
	昼間主コース	4	55	3年次 3	231	1.05			※平成29年度入学 定員減(5人)	
	夜間主コース	4	9	—	35	0.84			※平成29年度入学 定員増(1人)	
	企業経営学科				学士（経済学）		平成29年度			
	昼間主コース	4	75	3年次 4	313	1.16			※平成29年度入学 定員減(5人)	
	夜間主コース	4	10	—	38	1.16			※平成29年度入学 定員増(2人)	
	会計情報学科				学士（経済学）		平成29年度			
	昼間主コース	4	50	3年次 3	211	1.06			※平成29年度入学 定員減(5人)	
	夜間主コース	4	9	—	35	1.36			※平成29年度入学 定員増(1人)	
	情報管理学科				学士（経済学）		平成2年度		※平成29年4月学 生募集停止	
	昼間主コース	4	—	—	—	—				
	夜間主コース	4	—	—	—	—				
	社会システム学科				学士（経済学）		平成29年度			
	昼間主コース	4	65	3年次 5	274	1.04			※平成29年度入学 定員減(5人)、編 入学定員増(1人)	
	夜間主コース	4	11	—	42	0.93			※平成29年度入学 定員増(2人)	
	データサイエンス学部				学士		1.07	平成29年度	滋賀県彦根市馬場	
	データサイエンス学科	4	100	—	300 (データサイエン ス)				一丁目1番1号	
	教育学研究科								滋賀県大津市平津	
	学校教育専攻 (修士課程)	2	35	—	80	修士（教育学）	0.95	平成3年度	二丁目5番1号	
障害児教育専攻 (修士課程)	2	—	—	—	修士（教育学）	—	平成3年度		※平成29年4月 学生募集停止	
教科教育専攻 (修士課程)	2	—	—	—	修士（教育学）	—	平成3年度		※平成29年4月 学生募集停止	
高度教職実践専攻 (専門職学位課程)	2	20	—	40	教職修士（専門職）	0.90	平成29年度			
経済学研究科								滋賀県彦根市馬場		
経済学専攻 (博士前期課程)	2	13	—	31	修士（経済学）	0.43	昭和48年度	一丁目1番1号		
経営学専攻 (博士前期課程)	2	13	—	31	修士（経営学）	0.84	昭和48年度			
グローバル・ファイナンス専攻 (博士前期課程)	2	6	—	12	修士（ファイナンス）	0.08	平成13年度			
経済経営リスク専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士（経済学） 博士（経営学）	0.33	平成15年度			
データサイエンス研究科								滋賀県彦根市馬場		
データサイエンス専攻 (修士課程)	2	20	—	20	修士 (データサイエン ス)	1.15	平成31年度	一丁目1番1号		
(学内共同教育研究施設等)										
名 称 : 環境総合研究センター										
目 的 : センターは、環境に関する学際的・総合的な研究及び教育を推進すること を通じて、持続可能な社会の実現に資することを目的とする。										
所 在 地 : 滋賀県大津市平津二丁目5番1号										

附属施設の概要

設置年月	平成15年4月
規模等	建築面積 353 m <sup>2</sup> 延べ建物面積 697 m <sup>2</sup>
名称	社会連携センター
目的	センターは、市民、企業、地方公共団体等との連携を深め、本学の知的資源の組織化と活用を図ることにより、社会に開かれた大学として積極的に情報を発信し、地域社会からの信頼の醸成、教育研究活動の発展・充実に資することを目的とする。
所在地	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号、滋賀県大津市平津二丁目5番1号
設置年月	平成24年4月
規模等	延べ建物面積 102 m <sup>2</sup>
名称	データサイエンス教育研究センター
目的	センターは、ビッグデータ時代における社会的、学術的な要請に応えるため、データサイエンスに関する国内外の教育研究拠点として、教育及び研究の進展に寄与することを目的とする。
所在地	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号
設置年月	平成28年4月
規模等	延べ建物面積 250 m <sup>2</sup>
名称	保健管理センター
目的	センターは、本学における保健管理に関する専門的業務を行い、学生及び職員の健康の保持増進を図ることを目的とする。
所在地	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号、滋賀県大津市平津二丁目5番1号
設置年月	昭和53年4月
規模等	延べ建物面積 561 m <sup>2</sup>
名称	情報基盤センター
目的	センターは、本学の研究、教育、事務等の効率的な遂行に必要な基盤となる機器並びにネットワークの運用、管理及び保守を行うことを目的とする。
所在地	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号
設置年月	平成2年12月
規模等	延べ建物面積 1,046 m <sup>2</sup>
名称	高大接続・入試センター
目的	センターは、本学の入学選抜の実施を支援し、入試に係る広報活動を行うとともに、各学部と連携・協力して、アドミッション・ポリシーに則した適切な入試方法の開発及び高大連携・高大接続教育の充実に図り、入学者の学修データ等の調査・分析を行うことを目的とする。
所在地	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号
設置年月	平成28年8月
規模等	延べ建物面積 42 m <sup>2</sup>
(学部附属教育研究施設)	
名称	教育学部附属幼稚園
目的	附属学校は、幼児、児童及び生徒の発達段階に応じて、学校教育法(昭和22年法律第26号。)に基づき、保育又は教育を行うとともに、学部における幼児、児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、学部の計画に基づき、学生の教育実習の実施に協力することを目的とする。
所在地	滋賀県大津市昭和町10番3号
設置年月	昭和30年7月
規模等	敷地面積 39,451 m <sup>2</sup> (幼・小・中) 延べ建物面積 953 m <sup>2</sup>
名称	教育学部附属小学校
目的	附属学校は、幼児、児童及び生徒の発達段階に応じて、学校教育法(昭和22年法律第26号。)に基づき、保育又は教育を行うとともに、学部における幼児、児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、学部の計画に基づき、学生の教育実習の実施に協力することを目的とする。
所在地	滋賀県大津市昭和町10番3号
設置年月	昭和26年4月
規模等	敷地面積 39,451 m <sup>2</sup> (幼・小・中) 延べ建物面積 5,910 m <sup>2</sup>
名称	教育学部附属中学校
目的	附属学校は、幼児、児童及び生徒の発達段階に応じて、学校教育法(昭和22年法律第26号。)に基づき、保育又は教育を行うとともに、学部における幼児、児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、学部の計画に基づき、学生の教育実習の実施に協力することを目的とする。
所在地	滋賀県大津市昭和町10番3号
設置年月	昭和26年4月
規模等	敷地面積 39,451 m <sup>2</sup> (幼・小・中) 延べ建物面積 4,743 m <sup>2</sup>
名称	教育学部附属特別支援学校

<p>目的：附属学校は、幼児、児童及び生徒の発達段階に応じて、学校教育法(昭和22年法律第26号。)に基づき、保育又は教育を行うとともに、学部における幼児、児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、学部の計画に基づき、学生の教育実習の実施に協力することを目的とする。</p> <p>所在地：滋賀県大津市際川三丁目9番1号</p> <p>設置年月：昭和53年4月</p> <p>規模等：敷地面積 14,021 m<sup>2</sup> 延べ建物面積 2,378 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：附属教育実践総合センター</p> <p>目的：センターは、学生の教育実習及び就職活動等を支援し、実際的な教育問題の解決を目指して実践的研究を行い、かつ、地域の教育関係諸機関との有機的な連携を通じて、高度な実践的指導力を身につけた教員の養成・研修に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地：滋賀県大津市平津二丁目5番1号</p> <p>設置年月：平成12年4月</p> <p>規模等：延べ建物面積 36 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：経済学部附属史料館</p> <p>目的：本館は歴史資料の散逸を防止し、その保存、学術的活用を図ることにより、経済史、経営史及び社会史等の関連諸学の発展に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地：滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号</p> <p>設置年月：昭和42年6月</p> <p>規模等：建築面積 353 m<sup>2</sup> 延べ建物面積 1,028 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：経済学部附属経済経営研究所</p> <p>目的：研究所は、経済経営に関する内外の資料を収集し、それらに基づく調査研究を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号</p> <p>設置年月：昭和24年9月</p> <p>規模等：延べ建物面積 61 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：経済学部附属リスク研究センター</p> <p>目的：センターは経済社会の要請に応え、経済経営リスク等に関する研究と教育の推進を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号</p> <p>設置年月：平成16年2月</p> <p>規模等：延べ建物面積 36 m<sup>2</sup></p>

国立大学法人滋賀大学 設置申請等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
滋賀大学				滋賀大学				
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	230	-	920	学校教育教員養成課程	230	-	920	
経済学部				経済学部				
経済学科				経済学科				
昼間主コース	165	5	670	昼間主コース	165	5	670	
夜間主コース	11	-	44	夜間主コース	11	-	44	
ファイナンス学科				ファイナンス学科				
昼間主コース	55	3	226	昼間主コース	55	3	226	
夜間主コース	9	-	36	夜間主コース	9	-	36	
企業経営学科				企業経営学科				
昼間主コース	75	4	308	昼間主コース	75	4	308	
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	10	-	40	
会計情報学科				会計情報学科				
昼間主コース	50	3	206	昼間主コース	50	3	206	
夜間主コース	9	-	36	夜間主コース	9	-	36	
社会システム学科				社会システム学科				
昼間主コース	65	5	270	昼間主コース	65	5	270	
夜間主コース	11	-	44	夜間主コース	11	-	44	
データサイエンス学部				データサイエンス学部				
データサイエンス学科	100	-	400	データサイエンス学科	100	-	400	
計	790	20	3200	計	790	20	3200	
滋賀大学大学院				滋賀大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
学校教育専攻 (修士課程)	35	-	70	学校教育専攻 (修士課程)	35	-	70	
高度教職実践専攻 (専門職学位課程)	20	-	40	高度教職実践専攻 (専門職学位課程)	20	-	40	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻 (博士前期課程)	13	-	26	経済学専攻 (博士前期課程)	13	-	26	
経営学専攻 (博士前期課程)	13	-	26	経営学専攻 (博士前期課程)	13	-	26	
グローバル・ファイナンス専攻 (博士前期課程)	6	-	12	グローバル・ファイナンス専攻 (博士前期課程)	6	-	12	
経済経営リスク専攻 (博士後期課程)	6	-	18	経済経営リスク専攻 (博士後期課程)	3	-	9	定員変更(△3)
データサイエンス研究科				データサイエンス研究科				
データサイエンス専攻 (修士課程)	20	-	40	データサイエンス専攻 (博士前期課程)	20	-	40	課程変更
				データサイエンス専攻 (博士後期課程)	3	-	9	課程変更(意見伺い)
計	113	-	232	計	113	-	232	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(データサイエンス研究科 データサイエンス専攻(D))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
データサイエンス	データサイエンス特別レクチャー	1前	2			○			7	8				オムニバス
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			7	8	0	0	0	—
価値創造科目	データサイエンス特別研究1	1前	1				○		9	8				
	データサイエンス特別研究2	1後	1				○		9	8				
	データサイエンス特別研究3	2前	1				○		9	8				
	データサイエンス特別研究4	2後	1				○		9	8				
	データサイエンス特別研究5	3前	1				○		9	8				
	データサイエンス特別研究6	3後	1				○		9	8				
	データサイエンス特別演習1	2前	1				○		9	8				共同
	データサイエンス特別演習2	3前	1				○		9	8				共同
小計(8科目)	—	8	0	0	—			9	8	0	0	0	—	
合計(9科目)			—	10	0	0	—		9	8	0	0	0	—
学位又は称号	博士(データサイエンス)		学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
3年以上在学し、研究科が定める授業科目のうちから10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げたと認められた者については、博士後期課程に2年以上在学すれば足りるものとする。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

基礎となる学部														教 育 課 程 等 の 概 要													
(データサイエンス学部データサイエンス学科)																											
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考													
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手														
	データサイエンス入門	1前	2			○			1																		
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	0	0			—									
人文科学分野	哲学からの問い	1・2・3・4前後		2		○			1									兼2									
	歴史からの問い	1・2・3・4前後		2		○													兼2								
	文学からの問い	1・2・3・4前後		2		○													兼3								
	論理の世界	1・2・3・4前後		2		○													兼4								
	自然言語の世界	1・2・3・4前後		2		○													兼3								
	人間と存在	1・2・3・4前後		2		○													兼1								
	人間と倫理	1・2・3・4前後		2		○													兼2								
	人間と経済	1・2・3・4前後		2		○													兼3								
	人間と心理	1・2・3・4前後		2		○													兼3								
	心理学概論	1・2・3・4前後		2		○													兼1								
	日本の歴史	1・2・3・4前後		2		○													兼2								
	欧米の歴史	1・2・3・4前後		2		○													兼1								
	文化の歴史	1・2・3・4前後		2		○													兼1								
	欧米の文学	1・2・3・4前後		2		○													兼1								
	美術の世界	1・2・3・4前後		2		○													兼3								
	音楽の世界	1・2・3・4前後		2		○													兼3								
	文化への問い	1・2・3・4前後		2		○													兼2								
	芸術と文化	1・2・3・4前後		2		○													兼3								
	言語と文化	1・2・3・4前後		2		○													兼7								
	教育と文化	1・2・3・4前後		2		○													兼3								
	欧米の文化	1・2・3・4前後		2		○													兼1								
	東アジアの多様性の理解	1・2・3・4前後		2		○													兼2								
	小計（22科目）	—	0	44	0	—			1	0	0	0	0	0			兼49	—									
全学共通教養科目群 社会科学分野	経済学からの問い	1・2・3・4前後		2		○												兼7									
	経営学からの問い	1・2・3・4前後		2		○												兼3									
	法学からの問い	1・2・3・4前後		2		○												兼1									
	政治学からの問い	1・2・3・4前後		2		○												兼1									
	人間と社会	1・2・3・4前後		2		○												兼3									
	社会の比較	1・2・3・4前後		2		○												兼2									
	教育と社会	1・2・3・4前後		2		○												兼2									
	現代社会をみる目	1・2・3・4前後		2		○												兼2									
	日本国憲法	1・2・3・4前後		2		○												兼3									
	現代社会と政治	1・2・3・4前後		2		○												兼2									
	現代社会と法	1・2・3・4前後		2		○												兼2									
	私法の世界	1・2・3・4前後		2		○												兼2									
	日本社会の法と政治	1・2・3・4前後		2		○												兼1									
	経済学と現代	1・2・3・4前後		2		○												兼2									
	現代の企業と経営	1・2・3・4前後		2		○												兼3									
	社会と会計	1・2・3・4前後		2		○												兼6									
	組織と会計	1・2・3・4前後		2		○												兼1									
	現代の諸問題	1・2・3・4前後		2		○												兼2									
	スポーツと現代社会	1・2・3・4前後		2		○												兼1									
	生活と企業	1・2・3・4前後		2		○												兼1									
	消費と社会	1・2・3・4前後		2		○												兼1									
	くらしと住まい	1・2・3・4前後		2		○												兼1									
	衣と暮らし	1・2・3・4前後		2		○												兼1									
	情報化と社会	1・2・3・4前後		2		○				1								兼2									
	戦争と平和	1・2・3・4前後		2		○												兼1									
	平和教育	1・2・3・4前後		2		○												兼1									
	福祉と教育	1・2・3・4前後		2		○												兼2									
現代の社会福祉	1・2・3・4前後		2		○												兼1										
人権問題を学ぶ	1・2・3・4前後		2		○												兼1										
男女の共生	1・2・3・4前後		2		○												兼1										
世界経済と東アジア	1・2・3・4前後		2		○												兼1										



基礎となる学部 教育課程等の概要														
(データサイエンス学部データサイエンス学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	日本と東アジア	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	小計(32科目)	—	0	64	0	—			0	1	0	0	0	兼56
自然科学分野	線形代数への招待	1前	2			○			8	3				
	解析学への招待	1前	2			○			8	3				
	確率への招待	1前	2			○			8	3				
	データサイエンスへの招待	1・2・3・4前後		2		○			11	6	2			
	数学への招待	1・2・3・4前後		2		○			1	1				兼5
	自然科学への招待	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	エンジニアリングへの招待	1・2・3・4前後		2		○								兼3
	情報学への招待	1・2・3・4前後		2		○				1				兼3
	宇宙と地球	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	自然と人間	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	生命と物質	1・2・3・4前後		2		○								兼2
	物質とエネルギー	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	数学的思考	1・2・3・4前後		2		○								兼7
	問題解決の手法	1・2・3・4前後		2		○								兼2
	情報リテラシー	1・2・3・4前後		2		○								兼3
	情報通信の仕組み	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	メディアと情報	1・2・3・4前後		2		○								兼2
	メディアツール活用法	1・2・3・4前後		2		○								兼3
	情報教育概論	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	健康の科学	1・2・3・4前後		2		○								兼3
身体運動の科学	2・3・4前後		2		○								兼7	
小計(21科目)	—	6	36	0	—			11	6	2	0	0	兼44	
特定主題分野	近江とびわ湖Ⅰ	1・2・3・4前後		2		○								兼2
	近江とびわ湖Ⅱ	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	近江の歴史	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	近江のくらしと文化	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	彦根・湖東学	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	地域からの視点	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	地域共生論	1・2・3・4前後		2		○								兼2
	滋賀大学で環境を学ぶ	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	環境問題を学ぶ	1・2・3・4前後		2		○								兼4
	まちと住まい	1・2・3・4前後		2		○								兼1
	環境教育概論	1・2・3・4前後		2		○								兼2
	キャリアデザイン論	1・2・3・4前後		2		○								兼4
	働くことの意味	1・2・3・4前後		2		○								兼2
	自己理解	1・2・3・4前後		2		○								兼2
	こころと身体の科学	1・2・3・4前後		2		○								兼2
小計(15科目)	—	0	30	0	—			0	0	0	0	0	兼26	
外国語科目	英会話基礎	1前	1			○								兼4
	大学英語入門	1前	1			○								兼6
	英語Ⅰa	1後	1			○								兼6
	英語Ⅰb	1後	1			○								兼4
	Data Science English	2前		1		○			2	1				
	英語Ⅱ	2前		1		○								兼15
小計(6科目)	—	4	2	0	—			0	2	1	0	0	兼15	
体育科目	スポーツ科学Ⅰ	1前	1					○						兼5
	スポーツ科学Ⅱ	1後	1					○						兼5
	小計(2科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5

基礎となる学部 教育課程等の概要															
(データサイエンス学部データサイエンス学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
データサイエンス基礎科目	計算機利用基礎	1前	2			○									
	情報科学概論	1前	2			○			1	1					
	データ構造とアルゴリズム	1後	2			○			3						
	プログラミング I	1後	2			○			1	1					
	プログラミング I 演習	1後	1				○		1	1	1			兼2	
	データベース	2後	2			○								兼1	
	小計 (6科目)	—	11	0	0	—	—	—	3	3	2	0	0	兼3	—
	基礎データ分析	1前	2			○			1						
	解析学	1後	2			○			1	1					
	解析学演習	1後	1				○			2					兼2
	線形代数	1後	2			○			2	1					
	線形代数演習	1後	1				○		1	1					兼2
	統計学要論	1後	2			○			1						
	統計数学	2前	2			○				1					
回帰分析	2前	2			○			1							
多変量解析入門	2前	2			○				1						
小計 (9科目)	—	16	0	0	—	—	—	5	3	0	0	0	兼4	—	
基礎情報活用演習 A	1後	2				○			2	1					
基礎情報活用演習 B	2前	2				○			2	1					
小計 (2科目)	—	4	0	0	—	—	—	3	2	0	0	0	0	—	
専門教育科目群	プログラミング II	2前	2			○			1	1					
	プログラミング II 演習	2前	1				○		2	1					
	プログラミング III	2後	2			○			1						
	プログラミング III 演習	2後	1				○		2	1					
	ビジュアルプログラミング	3前	2			○			1	1					
	ビジュアルプログラミング演習	3前	1				○			1	1				
	応用数学	2後	2			○									兼1
	プログラミング設計	2後	2			○			1		1				
	情報理論	3前	2			○									兼1
	情報セキュリティ	3前	2			○				1					
	情報ネットワーク	3前	2			○				2					
	データマイニング総論	4後	2			○			1						
	パターン認識総論	4前	2			○			2						兼1
	情報学特論 (人工知能)	4後	2			○			1	1					
	情報学特論 (モバイルコンピューティング)	4後	2			○				1					
	社会調査法 I	2前	2			○					1				
	社会調査法 II	2後	2			○					1				
	標本調査法	2前	2			○			1						
	実験計画法	2後	2			○									兼1
	テキストマイニング	2後	2			○			1						
	多変量解析	2後	2			○			1						
	質的データ解析入門	3前	2			○			1						
	質的データ解析	3後	2			○				1					
	機械学習入門	3前	2			○			1						
機械学習	3後	2			○			1							
時系列解析入門	2後	2			○			1							
時系列解析	3前	2			○			1							
ノンパラメトリック解析入門	3前	2			○			1							
ノンパラメトリック解析	3後	2			○			1							
確率論	3後	2			○				1						



基礎となる学部														教 育 課 程 等 の 概 要													
(データサイエンス学部データサイエンス学科)																											
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考													
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手														
専門教育科目群	価値創造応用科目	公的統計	3前後	2			○		1						兼1												
		公的統計演習	3前後	1			○		1						兼1												
		心理分析論	3前後	2			○								兼1												
		心理分析演習	3前後	1			○								兼1												
		地域文化情報論	3前後	2			○								兼3	オムニバス(一部)											
		地域文化情報演習	3前後	1			○								兼3	オムニバス(一部)											
		小計(22科目)	—	0	33	0	—	—	2	0	1	0	0	0	兼20	—											
		データサイエンス入門演習	1後	2				○		11	6	2															
		データサイエンスフィールドワーク演習	2後	2				○		11	6	2															
		データサイエンス実践価値創造演習Ⅰ	3前	2				○		11	6	2				兼6											
	データサイエンス実践価値創造演習Ⅱ	3後	2				○		11	6	2				兼6												
	データサイエンス上級実践価値創造卒業演習Ⅰ	4前	2				○		11	6	2				兼6												
	データサイエンス上級実践価値創造卒業演習Ⅱ	4後	2				○		11	6	2				兼6												
	小計(6科目)	—	12	0	0	—	—	—	11	6	2	0	0	0	兼6	—											
合計(210科目)			—	65	330	0	—	—	11	6	2	0	0	0	兼193	—											
学位又は称号			学士(データサイエンス)			学位又は学科の分野			経済学関係、工学関係																		
卒業要件及び履修方法								授業期間等																			
(卒業要件) 教養教育科目群 29単位以上 専門教育科目群 99単位以上 合計 128単位以上								1学年の学期区分			2学期																
								1学期の授業期間			15週																
								1時限の授業時間			90分																
【教養教育科目群】29単位以上 (大学入門科目) データサイエンス入門 2単位(必修) (全学共通教養科目) 「自然科学」の必修3科目6単位、「人文科学」「社会科学」「特定主題」の3分野から各1科目2単位以上、合計20単位以上 (外国語科目) 英会話基礎 1単位、大学英語入門 1単位、英語Ia 1単位、英語Ib 1単位、Data Science English又は英語II 1単位 計5単位(必修) (体育科目) スポーツ科学Ⅰ 1単位、スポーツ科学Ⅱ 1単位 計2単位(必修)																											
【専門教育科目群】99単位以上 (データサイエンス基礎科目) <データエンジニアリング系科目> 計算機利用基礎 2単位、情報科学概論 2単位、データ構造とアルゴリズム 2単位、プログラミングⅠ 2単位、プログラミングⅠ演習 1単位、データベース 2単位 計11単位(必修) <データアナリシス系科目> 基礎データ分析 2単位、解析学 2単位、解析学演習 1単位、線形代数 2単位、線形代数演習 1単位、統計学要論 2単位、統計数学 2単位、回帰分析 2単位、多変量解析入門 2単位 計16単位(必修) <データ解析科目> 基礎情報活用演習A 2単位、基礎情報活用演習B 2単位 計4単位(必修) (価値創造基礎科目) プレゼンテーション論 2単位、情報倫理 2単位、価値創造方法論 2単位、価値創造実践論 2単位 計8単位(必修) (価値創造応用科目) 講義2単位・当該演習科目1単位を3セット 計9単位(必修) (データ駆動型PBL演習科目) データサイエンス入門演習 2単位、データサイエンスフィールドワーク演習 2単位、データサイエンス実践価値創造演習Ⅰ 2単位、データサイエンス実践価値創造演習Ⅱ 2単位、データサイエンス上級実践価値創造卒業演習Ⅰ 2単位、データサイエンス上級実践価値創造卒業演習Ⅱ 2単位 計12単位(必修)																											
合計 128単位以上																											

基礎となる修士課程 教育課程等の概要														
(データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 (M))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科入門	データサイエンス概論	1前	2			○			6		1			オムニバス
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			6	0	1	0	0	—
データエンジニアリング科目	マルチメディア特論	1後		2		○			2					オムニバス
	マルチメディア実践論	1後		2			○		2					オムニバス
	Webマイニング特論	1前		2		○			1	2	2			オムニバス
	Webマイニング実践論	1前		2			○		1	2	2			オムニバス
	サイバーフィジカル特論	1後		2		○				2				オムニバス
	サイバーフィジカル実践論	1後		2			○			2				オムニバス
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			3	2	2	0	0	—
データアナリシスコ目	確率過程理論	1後		2		○			1	1				オムニバス
	確率過程実践論	1後		2			○		1	1				オムニバス
	モデリング基礎理論	1前	2			○			4					オムニバス
	モデリング基礎実践論	1前		2			○		4					オムニバス
	モデル評価論	1後		2		○			2	1				オムニバス
	モデル評価実践論	1後		2			○		2	1				オムニバス
	小計 (6科目)	—	2	10	0	—			6	2	0	0	0	—
モデリング科目	教師あり学習	1前	2			○			3	2				オムニバス
	教師あり学習実践論	1前		2			○		3	2				オムニバス
	教師なし学習	1前	2			○			3		1			オムニバス
	教師なし学習実践論	1前		2			○		3		1			オムニバス
	時系列モデリング	1前		2		○			1	2				オムニバス
	時系列モデリング実践論	1前		2			○		1	2				オムニバス
	統計的モデリング	1後		2		○			3					オムニバス
	統計的モデリング実践論	1後		2			○		3					オムニバス
	強化学習・転移学習	1後		2		○			1	2				オムニバス
	強化学習・転移学習実践論	1後		2			○		1	2				オムニバス
小計 (10科目)	—	4	16	0	—			6	4	1	0	0	—	
価値創造科目	意思決定とデータサイエンス	1前	2				○		1					
	領域モデル実践論	1後		2			○		1		1			オムニバス
	課題研究1	1前	2				○		10	6	2			
	課題研究2	1後	2				○		10	6	2			
	課題研究3	2前	2				○		10	6	2			
	課題研究4	2後	2				○		10	6	2			
小計 (6科目)	—	10	2	0	—			10	6	2	0	0	—	
合計 (29科目)		—	18	40	0	—			10	6	2	0	0	—
学位又は称号		修士 (データサイエンス)			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
【修了要件】 (入門科目) データサイエンス概論 2単位 (必修) (データエンジニアリング科目) 2単位以上 (選択必修) (データアナリシスコ目) モデリング基礎理論 2単位 (必修) (モデリング科目) 教師あり学習、教師なし学習 各2単位 計4単位 (必修) (価値創造科目) 意思決定とデータサイエンス、課題研究1、課題研究2、課題研究3、課題研究4 各2単位 計10単位 (必修) (データエンジニアリング科目) (データアナリシスコ目) (モデリング科目) の中から、実践論4単位を必修とする。 ただし、実践論を履修する場合は、対となる講義も合わせて修得すること。 上記を含め30単位以上を修得し、修士論文審査に合格すること。							1 学年の学期区分			2 期				
							1 学期の授業期間			1 5 週				
							1 時限の授業時間			9 0 分				

授 業 科 目 の 概 要			
（データサイエンス研究科 データサイエンス専攻（D））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
データサイエンスコア科目	データサイエンス特別レクチャー	<p>本学が育成するデータサイエンティスト像とは、「複数分野の領域知識をもち、方法論とデータをつなぎ、価値を生み出す人材」である。その趣旨は次の通りである。データに基づいて適切な意思決定を行い価値創造するためには、第一に、適切な課題を見つける必要がある（課題の発見）。次に、その課題の解決につながるデータを収集・取得し、加工や研磨などの前処理をする（データの収集・前処理）。そして、分析するためのモデルを決め、最適化計算を行う（モデルの決定・最適化計算）。最後に、計算結果を解釈して意思決定者にわかりやすく伝える（結果の解釈）。社会が求めるデータサイエンティストは、このような「データに基づいて意思決定へつなげるための一連の過程」を自らのイニシアティブで実施し、価値創造につなげることのできる「一気通貫型」の人材である。</p> <p>その中で、本研究科の博士後期課程の育成人材像は、データサイエンスに関する新たな基盤技術を生み出し、新たな価値創造の「場」の開拓につなげることができデータから価値を生み出す一気通貫型の人材であり、実際の問題解決場面において、既存の技術では解決できない問題に直面した際、自ら新たな技術を生み出し解決することのできる人材である。</p> <p>この授業では、データから価値を生み出す一連の過程における各ステップに関する最先端知識を、価値創造、アナリシス、エンジニアリング、モデリングの4つに類型化し、それぞれ学ぶ。データサイエンスに関して広く先端知識を身につけることで、価値創造の現場において問題が起きたときに、どのステップに解決すべき問題があるかを見抜くための基礎力を身につける。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>価値創造（課題の発見、結果の解釈）  （3 河本 薫／1回） ビジネスにおいてデータと分析力から価値創造するプロセス</p> <p>アナリシス（結界の解釈）  （1 和泉志津恵／1回） 統計家の行動基準  （14 姫野哲人／1回） 高次元データの分析  （15 藤井孝之／1回） 確率過程理論  （7 杉本知之／1回） 医学統計</p> <p>エンジニアリング（データの収集と前処理）  （2 市川 治／1回） 音声認識  （11 梅津高朗／1回） モバイルコンピューティング  （12 川井 明／1回） 高度交通システム  （4 佐藤智和／1回） 画像による実環境センシングと情報可視化  （17 村松千左子／1回） 画像処理</p> <p>モデリング（モデルの決定・最適化計算）  （10 岩山幸治／1回） バイオインフォマティクス  （6 清水昌平／1回） 因果探索  （13 田中琢真／1回） 神経科学と数理モデル  （9 笛田 薫／1回） 統計モデリング  （16 松井秀俊／1回） 経時測定データに対する統計モデリング</p>	オムニバス

<p>価値創造科目</p>	<p>データサイエンス特別研究 1</p>	<p>本研究科の博士後期課程の育成人材像は、データサイエンスに関する新たな基盤技術を生み出し、新たな価値創造の「場」の開拓につなげることができるデータから価値を生み出す一気通貫型の人材であり、実際の問題解決場面において、既存の技術では解決できない問題に直面した際、自ら新たな技術を生み出し解決することのできる人材である。特別研究は、こうした人材育成のための研究指導科目である。特別研究 1 では、実際の問題解決場面において解決法を提案する経験を積むために、本学データサイエンス教育研究センターと企業や自治体、領域科学の大学研究者等が行った価値創造プロジェクトを参照する。そして、その中で既存の技術では解決できなかった問題を知り、それを解決するためには、データから価値を創造するための一連のプロセスのどのステップを改善すべきか考察する。そして、候補としてあがった課題を解決するために、関連研究のサーベイや探索的研究を主に行う。</p> <p>なお、各指導教員と専門分野は、以下のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1 和泉志津恵) テキストデータに対する統計モデルと分類</li> <li>(2 市川 治) 音声認識</li> <li>(3 河本 薫) ビジネスにおいてデータと分析力から価値創造するプロセスの実証研究</li> <li>(4 佐藤智和) 画像による実環境センシングと情報可視化</li> <li>(5 椎名 洋) 情報幾何</li> <li>(6 清水昌平) 因果探索</li> <li>(7 杉本知之) 医学統計</li> <li>(8 竹村彰通) グラフィカルモデル</li> <li>(9 笛田 薫) 統計モデリング</li> <li>(10 岩山幸治) バイオインフォマティクス</li> <li>(11 梅津高朗) モバイルコンピューティング</li> <li>(12 川井 明) 高度交通システム</li> <li>(13 田中琢真) 深層学習の手法開発と神経科学データ解析</li> <li>(14 姫野哲人) 高次元データの分析</li> <li>(15 藤井孝之) 確率過程理論</li> <li>(16 松井秀俊) 経時測定データに対する統計モデリング</li> <li>(17 村松千左子) 画像処理</li> </ol>	
<p>価値創造科目</p>	<p>データサイエンス特別研究 2</p>	<p>本学データサイエンス教育研究センターと企業や自治体、領域科学の大学研究者などが行う価値創造プロジェクトの中から参加するプロジェクトを決める。そして、新たな基盤技術に関する研究とそれを実際の問題解決に適用する研究を行う。</p> <p>各指導教員の指導の下で、基盤技術に関する研究論文、および実問題の解決による価値創造に関する論文の作成を進める。このように修了研究を進める中で、「データサイエンスに関する新たな基盤技術を生み出し、新たな価値創造の「場」の開拓につなげることができる」という本研究科の育成人材像に沿った能力を身につける。</p> <p>なお、各指導教員と専門分野は、以下のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1 和泉志津恵) テキストデータに対する統計モデルと分類</li> <li>(2 市川 治) 音声認識</li> <li>(3 河本 薫) ビジネスにおいてデータと分析力から価値創造するプロセスの実証研究</li> <li>(4 佐藤智和) 画像による実環境センシングと情報可視化</li> <li>(5 椎名 洋) 情報幾何</li> <li>(6 清水昌平) 因果探索</li> <li>(7 杉本知之) 医学統計</li> <li>(8 竹村彰通) グラフィカルモデル</li> <li>(9 笛田 薫) 統計モデリング</li> <li>(10 岩山幸治) バイオインフォマティクス</li> <li>(11 梅津高朗) モバイルコンピューティング</li> <li>(12 川井 明) 高度交通システム</li> <li>(13 田中琢真) 深層学習の手法開発と神経科学データ解析</li> <li>(14 姫野哲人) 高次元データの分析</li> <li>(15 藤井孝之) 確率過程理論</li> <li>(16 松井秀俊) 経時測定データに対する統計モデリング</li> <li>(17 村松千左子) 画像処理</li> </ol>	

<p>価値創造科目</p>	<p>データサイエンス特別研究 3</p>	<p>データサイエンス特別研究2に引き続き、本学データサイエンス教育研究センターと企業や自治体、領域科学の大学研究者などが行う価値創造プロジェクトに参加し、新たな基盤技術に関する研究とそれを実際の問題解決に適用する研究を行う。</p> <p>各指導教員の指導の下で、基盤技術に関する研究論文、および実問題の解決による価値創造に関する論文の作成を進める。</p> <p>このように修了研究を進める中で、「データサイエンスに関する新たな基盤技術を生み出し、新たな価値創造の「場」の開拓につなげることができる」という本研究科の育成人材像に沿った能力を身につける。</p> <p>なお、各指導教員と専門分野は、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1 和泉志津恵) テキストデータに対する統計モデルと分類</li> <li>(2 市川 治) 音声認識</li> <li>(3 河本 薫) ビジネスにおいてデータと分析力から価値創造するプロセスの実証研究</li> <li>(4 佐藤智和) 画像による実環境センシングと情報可視化</li> <li>(5 椎名 洋) 情報幾何</li> <li>(6 清水昌平) 因果探索</li> <li>(7 杉本知之) 医学統計</li> <li>(8 竹村彰通) グラフィカルモデル</li> <li>(9 笛田 薫) 統計モデリング</li> <li>(10 岩山幸治) バイオインフォマティクス</li> <li>(11 梅津高朗) モバイルコンピューティング</li> <li>(12 川井 明) 高度交通システム</li> <li>(13 田中琢真) 深層学習の手法開発と神経科学データ解析</li> <li>(14 姫野哲人) 高次元データの分析</li> <li>(15 藤井孝之) 確率過程理論</li> <li>(16 松井秀俊) 経時測定データに対する統計モデリング</li> <li>(17 村松千左子) 画像処理</li> </ul>	
<p>価値創造科目</p>	<p>データサイエンス特別研究 4</p>	<p>データサイエンス特別研究2,3に引き続き、本学データサイエンス教育研究センターと企業や自治体、領域科学の大学研究者などが行う価値創造プロジェクトに参加し、新たな基盤技術に関する研究とそれを実際の問題解決に適用する研究を行う。そして、その成果を修了研究としてまとめる準備をする。</p> <p>データサイエンス特別研究2,3で作成した論文の内容を改善し、基盤技術をより洗練させ、実際の問題解決においてより大きな価値創造につなげられるようにする。そして、各指導教員の指導の下で、基盤技術に関する論文および、価値創造に関する論文の完成を目指す。</p> <p>このように修了研究を進める中で、「データサイエンスに関する新たな基盤技術を生み出し、新たな価値創造の「場」の開拓につなげることができる」という本研究科の育成人材像に沿った能力を身につける。</p> <p>なお、各指導教員と専門分野は、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1 和泉志津恵) テキストデータに対する統計モデルと分類</li> <li>(2 市川 治) 音声認識</li> <li>(3 河本 薫) ビジネスにおいてデータと分析力から価値創造するプロセスの実証研究</li> <li>(4 佐藤智和) 画像による実環境センシングと情報可視化</li> <li>(5 椎名 洋) 情報幾何</li> <li>(6 清水昌平) 因果探索</li> <li>(7 杉本知之) 医学統計</li> <li>(8 竹村彰通) グラフィカルモデル</li> <li>(9 笛田 薫) 統計モデリング</li> <li>(10 岩山幸治) バイオインフォマティクス</li> <li>(11 梅津高朗) モバイルコンピューティング</li> <li>(12 川井 明) 高度交通システム</li> <li>(13 田中琢真) 深層学習の手法開発と神経科学データ解析</li> <li>(14 姫野哲人) 高次元データの分析</li> <li>(15 藤井孝之) 確率過程理論</li> <li>(16 松井秀俊) 経時測定データに対する統計モデリング</li> <li>(17 村松千左子) 画像処理</li> </ul>	



<p>価値創造科目</p>	<p>データサイエンス特別研究 5</p>	<p>データサイエンス特別研究2, 3, 4に引き続き、本学データサイエンス教育研究センターと企業や自治体、領域科学の大学研究者などが行う価値創造プロジェクトに参加し、新たな基盤技術に関する研究とそれを実際の問題解決に適用する研究を行う。そして、その成果を修了研究としてまとめる準備をする。</p> <p>各指導教員の指導の下で、データサイエンス特別研究2, 3, 4で作成した基盤技術に関する論文および実問題の解決による価値創造に関する論文の内容を改善し、実際の問題解決においてより大きな価値創造につなげられるようにする。</p> <p>このように修了研究を進める中で、「データサイエンスに関する新たな基盤技術を生み出し、新たな価値創造の「場」の開拓につなげることができる」という本研究科の育成人材像に沿った能力を身につける。</p> <p>なお、各指導教員と専門分野は、以下のとおり</p> <p>(1 和泉志津恵) テキストデータに対する統計モデルと分類  (2 市川 治) 音声認識  (3 河本 薫) ビジネスにおいてデータと分析力から価値創造するプロセスの実証研究  (4 佐藤智和) 画像による実環境センシングと情報可視化  (5 椎名 洋) 情報幾何  (6 清水昌平) 因果探索  (7 杉本知之) 医学統計  (8 竹村彰通) グラフィカルモデル  (9 笛田 薫) 統計モデリング  (10 岩山幸治) バイオインフォマティクス  (11 梅津高朗) モバイルコンピューティング  (12 川井 明) 高度交通システム  (13 田中琢真) 深層学習の手法開発と神経科学データ解析  (14 姫野哲人) 高次元データの分析  (15 藤井孝之) 確率過程理論  (16 松井秀俊) 経時測定データに対する統計モデリング  (17 村松千左子) 画像処理</p>	
<p>価値創造科目</p>	<p>データサイエンス特別研究 6</p>	<p>データサイエンス特別研究2, 3, 4, 5に引き続き、本学データサイエンス教育研究センターと企業や自治体、領域科学の大学研究者などが行う価値創造プロジェクトに参加し、新たな基盤技術に関する研究とそれを実際の問題解決に適用する研究を行う。そして、その成果を修了研究としてまとめる。</p> <p>各指導教員の指導の下で、データサイエンス特別研究2, 3, 4, 5で作成した基盤技術に関する論文および実問題の解決による価値創造に関する論文の内容をさらに改善し、実際の問題解決においてより大きな価値創造につなげられるようにする。</p> <p>このように修了研究を進める中で、「データサイエンスに関する新たな基盤技術を生み出し、新たな価値創造の「場」の開拓につなげることができる」という本研究科の育成人材像に沿った能力を身につける。</p> <p>なお、各指導教員と専門分野は、以下のとおり</p> <p>(1 和泉志津恵) テキストデータに対する統計モデルと分類  (2 市川 治) 音声認識  (3 河本 薫) ビジネスにおいてデータと分析力から価値創造するプロセスの実証研究  (4 佐藤智和) 画像による実環境センシングと情報可視化  (5 椎名 洋) 情報幾何  (6 清水昌平) 因果探索  (7 杉本知之) 医学統計  (8 竹村彰通) グラフィカルモデル  (9 笛田 薫) 統計モデリング  (10 岩山幸治) バイオインフォマティクス  (11 梅津高朗) モバイルコンピューティング  (12 川井 明) 高度交通システム  (13 田中琢真) 深層学習の手法開発と神経科学データ解析  (14 姫野哲人) 高次元データの分析  (15 藤井孝之) 確率過程理論  (16 松井秀俊) 経時測定データに対する統計モデリング  (17 村松千左子) 画像処理</p>	

<p>価値創造科目</p>	<p>データサイエンス特別演習 1</p>	<p>           主指導教員だけでなく、主指導教員とは異なる専門をもつ副指導教員から助言および指導を受ける。データサイエンス特別研究1で行った本学データサイエンス教育研究センターと企業や自治体、領域科学の大学研究者などが行う価値創造プロジェクトに関する探索的研究の成果やデータサイエンス特別研究2,3における修了研究の進捗状況を発表しフィードバックを受け、修了研究に生かす。            また、学生の在籍する研究室合同で行い、他研究室の学生の進捗状況を聞き議論する機会としての役割を持たせる。             なお、各指導教員と専門分野は、以下のとおり            (1 和泉志津恵) テキストデータに対する統計モデルと分類            (2 市川 治) 音声認識            (3 河本 薫) ビジネスにおいてデータと分析力から価値創造するプロセスの実証研究            (4 佐藤智和) 画像による実環境センシングと情報可視化            (5 椎名 洋) 情報幾何            (6 清水昌平) 因果探索            (7 杉本知之) 医学統計            (8 竹村彰通) グラフィカルモデル            (9 笛田 薫) 統計モデリング            (10 岩山幸治) バイオインフォマティクス            (11 梅津高朗) モバイルコンピューティング            (12 川井 明) 高度交通システム            (13 田中琢真) 深層学習の手法開発と神経科学データ解析            (14 姫野哲人) 高次元データの分析            (15 藤井孝之) 確率過程理論            (16 松井秀俊) 経時測定データに対する統計モデリング            (17 村松千左子) 画像処理         </p>	<p>共 同</p>
<p>価値創造科目</p>	<p>データサイエンス特別演習 2</p>	<p>           主指導教員だけでなく、主指導教員とは異なる専門をもつ副指導教員から助言および指導を受ける。データサイエンス特別研究2,3,4における修了研究の進捗状況を発表しフィードバックを受け、修了研究に生かす。            また、学生の在籍する研究室合同で行い、他研究室の学生の進捗状況を聞き議論する機会としての役割を持たせる。             なお、各指導教員と専門分野は、以下のとおり            (1 和泉志津恵) テキストデータに対する統計モデルと分類            (2 市川 治) 音声認識            (3 河本 薫) ビジネスにおいてデータと分析力から価値創造するプロセスの実証研究            (4 佐藤智和) 画像による実環境センシングと情報可視化            (5 椎名 洋) 情報幾何            (6 清水昌平) 因果探索            (7 杉本知之) 医学統計            (8 竹村彰通) グラフィカルモデル            (9 笛田 薫) 統計モデリング            (10 岩山幸治) バイオインフォマティクス            (11 梅津高朗) モバイルコンピューティング            (12 川井 明) 高度交通システム            (13 田中琢真) 深層学習の手法開発と神経科学データ解析            (14 姫野哲人) 高次元データの分析            (15 藤井孝之) 確率過程理論            (16 松井秀俊) 経時測定データに対する統計モデリング            (17 村松千左子) 画像処理         </p>	<p>共 同</p>